

自慢の庭 開放広がる

石崎さん呼びかけ 伊勢志摩3か所に

伊勢志摩地域での5月から、個人が自慢の庭を一般開放するオープンガーデンを3か所で楽しめるようになつた。南伊勢町で開いて5年目になる石崎清士さん(67)が、伊勢市の中出健士さん(72)、志摩市の白石佳子さん(67)に呼びかけて実現。主に週末、きれいに手入れされたガーデンを誰でも見られる。石崎さんは花々を見た人が感動し、それを見た私たちも感動する。お互いに幸せです」と話す。(竹本吉弘)

ラベンダーやホワイトレスが色鮮やかな自慢のオープンガーデンに立つ石崎さん夫婦。プランターや植木鉢は使わず、昔の田舎を思わせる「ナチュラルな庭」を目指している(南伊勢町船越の「汐見ガーデン」で)



汐見ガーデン(石崎さんの庭、南伊勢町船越)。6月上旬まで(石崎さん0599・66・1141)
遊花夢(中出さんの庭、伊勢市上野町)。6月中旬までの土日。(中出さん090・7618・9102)
ゆるりガーデン(白石さんの庭、志摩市磯部町迫間)。6月中旬までの金土曜。(白石さん080・5312・4733)。

石崎さんの庭「汐見ガーデン」は五ヶ所湾を見下ろす小高い丘の3300平方メートル。サクラやモミジなどの樹木が生い茂り、花畠には宿根草を含め200種以上の草花。花畠の周辺斜面は竹林が覆っている。

特に自慢なのが自生しているササユリの群生。かつては町内のあちこちで見られたが、妻の寿賀子さん(65)は「ここで群生を見たお年寄りが、腰を抜かすほど驚いた」と話す。ササユリは今月末に見頃を迎える。

石崎さんは名古屋市在住のササユリが10年構想となり、名古屋から通いながらの庭造りが始まった。以来、10年がかり。定年後の5年前に移住し、オープンガーデン初年の2013年は約300人が訪れる人気となつた。

今月30日にはササユリを

だた頃、趣味の釣りの拠点が欲しいと23年前に土地を購入。ジャンケルのようだった丘を約14年前に買足した。「ここに花畠が出思はず素晴らしい」との思いが「オープンガーデン10年構想」となり、名古屋から通いながらの庭造りが始まった。以来、10年がかり。定年後の5年前に移住し、オープンガーデン初年の2013年は約300人が訪れる人気となつた。

今月30日にはササユリを

見に町内の保育園3園の園児20人が遠足で、シニアクラブのお年寄り30人は合唱で訪ねてくる。お年寄りは庭で弁当を味わい、合唱して楽しむという。

石崎さんは「オープンガーデンの目的は三つ。まず音楽で楽しむ」という。丹精した庭や花を見てもう。第二は「コミュニケーション」。訪れた人や庭主同士で交流が深まる。環境の美化、地域の活性化などにも貢献できる」と話す。

石崎さんが説くオープン

ガーデンの素晴らしさと共に鳴し、今年から開放したのが中出さんの庭「遊花夢」。玉城町の自宅のほかに7年前、伊勢市上野町の別荘地に土地を買い求め、妻と2人で庭造りに取り組んだ。そこを訪ねた石崎さんから誘われた。

中出さんの庭は260種の草花で彩られ、今はバラが見頃。「来訪者に備えて待機しているのは大変だけど、大勢の人を見てもらえて、

うれしい」と中出さんは話

す。

白石さんは石崎さんの庭

を見に訪れて刺激を受け、

エデやムクゲなどの樹木や

花、山野草が自慢だ。石崎

らう。第二は「コミュニケーション」を開園。力

10年前から手入れしていた

自宅の庭の花を増やし「ゆ

るりガーデン」を開園。力

午後4時。開園日はそれぞ

れ異なる。

オープンガーデンの開園

時間はいずれも午前10時

午後4時。開園日はそれぞ

れ異なる。

オープンガーデンに参加する庭

が増えますよ」と笑顔を見せる。

さんは「来年はこの伊勢志

摩地域で2か所以上、オ

ープンガーデンに参加する庭

が増えますよ」と笑顔を見

せる。



水面にかれんな花を咲かせたスイレン

花時間が短くなり、午後は閉じてしまつという。

管理する向井岩夫さん(63)は

「今年は気候がよく、花の数が多

いのでぜひ見に来てほしい」と話

している。

隣接する水田では、6月末頃か

ら、古代米の色で絵を表現する「田んぼアート」が見頃を迎える。

水面彩る初夏

熊野

熊野市飛鳥町小又のビオトープで、スイレンの花が見頃を迎えている。

ビオトープは地元住民が管理し、白とピンク色のスイレンが植えられている。晴天の日の午前9時から午後2時頃に花が開き、水面を彩る。見頃は9月末頃までだが、8月中旬を過ぎると、花の開